

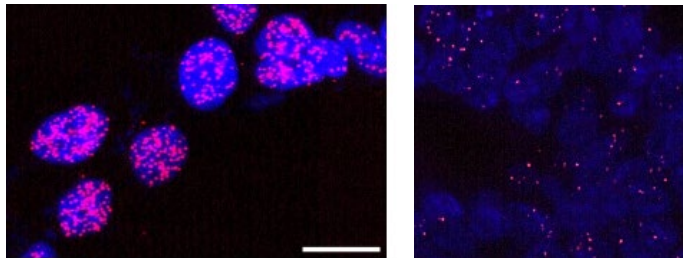
第4回ステロイドホルモン学会研究奨励賞を受賞しました (2019/11/2)

テーマ：婦人科疾患とホルモン動態
場 所：アクトシティ浜松（静岡県浜松市）

災害産婦人科学分野の研究の一つである「婦人科疾患とホルモン動態」について、当研究所災害医学研究部門 災害産婦人科学分野の三木康宏 講師が「第 4 回 日本ステロイドホルモン学会研究奨励賞」を受賞しました。第 27 回日本ステロイドホルモン学会学術集会にて表彰式が行われ、受賞講演を行いました。

受賞課題：Protein-protein interaction 検出技術によるステロイドホルモン・シグナルの可視化

Protein-protein interaction (PPI：タンパク質間相互作用) は様々な細胞シグナルにみられる基本的な現象であり、ステロイドホルモン・シグナルにおいては、受容体の二量体形成や転写共役因子との複合体形成等で PPI が認められます。PPI を検出する技術はいくつかありますが、培養細胞でしか用いることができず、実際のヒトの組織上で PPI を評価することは困難とされてきました。三木講師は、近接ライゲーション法 (proximity ligation assay) という手法を用い、女性ホルモン受容体であるエストロゲン受容体の二量体形成 (受容体の活性化) の検出に成功しました。この手法を用いることで、実際のヒトの組織におけるステロイドホルモンの働きを知ることができます。三木講師らが取り組んでいる婦人科疾患とストレスホルモン研究においても、ヒト組織を用いた正確な評価系の構築つながるものと期待されます。



近接ライゲーション法による乳癌におけるエストロゲン受容体二量体の検出
赤いドットが活性化した受容体を示している
(左：培養細胞、右：ヒト乳癌組織)



文責：三木康宏（災害医学研究部門）